

農業後継者育成基金事業

平成 25 年度新規就農支援活動助成事業

事業主体 南さつま市担い手育成総合支援協議会

1 目的

南さつま市大浦地域は、近年、他産業からの新規参入者や後継者が少しずつではあるが確保されつつあり明るい兆しが見えている。これらの青年農業者が将来的に地域を担う農業経営者となるために、経営管理能力や資質向上活動を支援するとともに、地域の課題解決のための実証活動や交流会を通じて、経営形態の異なる農業者が互いに協力し合うことにより個々の経営発展、併せて地域農業の活性化を目指す。

2 実施状況

(1)大浦地域農業の将来を語る会の開催

平成 25 年 8 月 29 日、50 歳未満の若手農家等 18 名が一堂に会し、個々の農業経営の進め方や経営作目の異なる者同士の意見交換会を開催した。新規就農者・青年農業者に対し、関係機関（県、市、JA）担当者から、有利な制度事業や人・農地プランと新規就農者の位置づけについての説明、そして DVD 視聴をした後、質疑応答、意見交換を行った。



(2) 先進地視察研修の実施

平成 25 年 12 月 5 日から 6 日にかけて、11 名の参加により農業生産法人株式会社宮崎アグリアート（宮崎市）と農事組合法人きらり農場高木（都城市）に視察研修を実施した。宮崎アグリアートにおいては、無農薬・有機農法を基本とした早場米、飼料用稲、普通作の播種から収穫・調整、精米・小分けまで自社農園、自社工場での一貫経営により、宮崎太陽米のコシヒカリ、ミルキークイーン、ヒノヒカリを中心にした水稻と、こだわりのお野菜としてスイートコーン、きゅうり、里芋、マンゴーなどの栽培について室内検討と加温ハウスによるピーマン栽培の農場研修を行った。



きらり農場高木においては、法人化による遊休農地の解消、効率的な栽培による生産性の向上、利用権設定による集積面積の拡大、そして地元雇用の提供について、さらに農産物の加工、観光農園・体験型農園による研修生の受入れなどによる地域農業、農村社会の発展等について説明を受けた。

また、2 日間の行程の中で物産館や直売所に立寄り、主に農産物の出店、陳列方法を研修した。

3 今後の課題、取り組み

経営作目の違いや年齢層の隔たりなどの理由で、同じ地域で営農しながらもお互いの交流が進まず、将来の農業経営に不安を持つ青年農業者にとって、今回のこの支援事業で取り組んだ研修や交流会に参加して意見交換をする中で、仲間意識を高めながら個々の経営の安定を図ることが地域農業の進展に結びつくことを確認できた。

今回、参加した青年農業者の一部に、新たな農業青年組織の結成を模索する動きや平成 26 年度以降についても継続した研修支援体制を希望する声もあがっており、支援する側の関係機関にとっては、今回参加したメンバーを中心に総合的に支援する方向性が確立したといえる。